

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第74号

発行日：平成29年 8月 1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

市内文化財巡り 歴史ウォーキング

古地図を片手に

有岡城惣構を歩く

5月20日(土)に参加者21名で実施されました。3月の市民ガイドでは、惣構の城・有岡城の南半分を歩きましたが、今回はその続き北半分をめぐるコースです。

JR伊丹駅前カリヨン広場で有岡城の概要を聞き、石垣等を見学した後、雲正坂からいよいよ惣構の外郭を探ることになります。

雲正坂のふもと、免許更新センターのあたりが江戸時代は船着き場であったことなど、昔の地形や交通運送のようすを聞き、今はコンクリートで固められたところに沼や川が入り込んでいた姿を想像すると、有岡城の堅牢さが偲ばれました。



雲正坂で説明

路地を入れて空港線の高架下をくぐると、城内《高》と城外《低》の段差がはっきりと見えてきます。江戸時代、伊丹郷町として商工業が栄えた城内と外の地域を結ぶ道は、今でもいくつか残っており、階段の所もありました。「こんなとこ、伊丹にあったんや」という声がしきり。くすのきセンターから先は、水路に蓋をした狭い通路を行きます。古地図にもある次郎ヶ山は、今はマンションの敷地の一部になっていますが、下から見上げると、池田方面への見晴らしがよかっただろうと思われる高さ。大きな木が一本あるのが目印です。

長い坂を登って北ノ口の児童公園で一息つきながら、城から北の眺めを楽しみました。落城の時に、この北ノ口から北を目指した一行がたどった道は、今は家々の中に埋もれていました。

萬徳寺への道を往復し、再び坂を下って多田街道の分岐点へ向かう。坂の上り下りで、汗をかきかき息もフウフウ。今年の5月はとつても暑い。産業道路を地下道で渡り、惣構東側の崖を北上して段差をあらためて実感。少しはずれて発音寺を見学。ここではうれしい誤算があり時間がかかりましたが、皆さん大満足。いつもは入れない本堂に上げていただき三面大黒天立像をはじめ数々の仏様を拝ませてくださいました。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。
(☎：072-784-8090)

<研究発表>

旧地名掲示板をさがして

内田 襄

伊丹市内には、数多くの「旧地名の掲示板」があることを知り、調べてみました。

「古来から使われてきた地名は、地域の歴史、伝統、文化を育んできた貴重な遺産です。私たちは、これらの地名を後世に継承しなければなりません。この掲示板が、地名を継承するとともに、その地名の持つ歴史や伝説など先人の築いた地域文化を学んでいく一助となれば幸いです。」の言葉とともに各地域に掲示されています。

私の生まれ育ちは明石市ですが、そこでも古くからあった地名が住居表示の変更でなくなっています。たとえば源平の戦いで知られる忠度町(ただのり)とか右手塚町(うでつか)の名、は天文町に隠れてしまっています。

伊丹では、昭和 28 年頃の地図に伊丹市大字・小字地図があり、これに沿って掲示板をさがしてみました。

荒牧(二か所)、山本(大野)、荻野、鴻池、下河原、北村、東野、中野、西野、桑津、北河原、大鹿、昆陽(昆陽、昆陽南)、寺本、池尻、岩屋、森本、口酒井、藤の木(天津)、伊丹、御願塚、南野南菱町、南野北、南野、野間北、野間、行基町 出来るだけ北から順に並べてみました。

行基町については、一番後に追加したものです。(この掲示板は、なぜ、こんなにわかりにくい所にあるのか?)

北村3丁目の多田街道沿いにある北村(1)児童公園に北村の旧地名の掲示板が立てられています。内容は、旧地名地図と解説文から成っています。解説文を以下に示します。

『「北村」の地名の由来については、伊丹町の北にある集落であることから付けられたと考えられます。北村は「喜多村」と記されていた時代もあり、以前は北村の枝郷として鑄物師村・伊丹坂村・辻村・野村の4つの集落が点在していました。



発音寺の大黒天立像

再び有岡城へ戻り、きしの砦跡・猪名野神社を見学。見慣れた神社にも多くの歴史がつまんでいることに、皆さん深くうなずかれています。ここで我等がガイドブックのピーアールをしたところ、10名の方々が買って下さいました。「ありがとうございました」

時間が押していたので、西側の外郭をたどるコースを変更して、宮ノ前通りから三軒寺前広場そして法巖寺へ。今回は境内へ入れていただき、本堂前で大楠木やお寺の歴史を聞きました。

お昼の太陽が照りつける中、最終目的地の墨染寺へ。向かいの歩道から山門やコンクリート造りの建物を眺めながら、お寺の由来を聞きました。境内にある女郎塚や鬼貫の親子墓の話に興味を示しておられました。

今回のコースはあまり行ったことがなかった場所ばかりで、伊丹の『ヒミツ』を知ったようで、『とく』した気分が家路につきました。



墨染寺門前で

(半澤 記)

※次回の市民ガイドは、9月30日(土)に予定されています。

現在地は伊丹郷町より多田神社（多田院）へ通じる多田道（多田街道）の道沿いで、南へしばらく行くと西国街道と交差し、そこには辻の碑と道標があります。道標には「従是多田御社江一里半」と記されています。旧地名の小字の中で「自然」「東自然」「西自然」は、有岡城主・荒木村重の子で、京に於いて殺害された自然を哀れんで立てられたという自然居士の墓があったことから、また、「北良蓮寺」「南良蓮寺」は天正年間（1573～1592年）の兵火で焼失した良蓮寺があったと伝えられることから付けられたものと思われます。その他、地図に表示していますように多数の旧地名がありました。現在は北伊丹・鑄物師・緑ヶ丘・北園・高台・春日丘などの町名となりました。

この表示板は、使われなくなったこれらの旧地名を永く後世に伝えるために作製したものです。

伊丹市 1999(平成11)年3月 』



北村の旧地名揭示板

いまでは「辻村」の名は、市営バスの停留所に残すのみになっています。

皆さんも、お近くの揭示板を探して、じっくり読んでみてください。

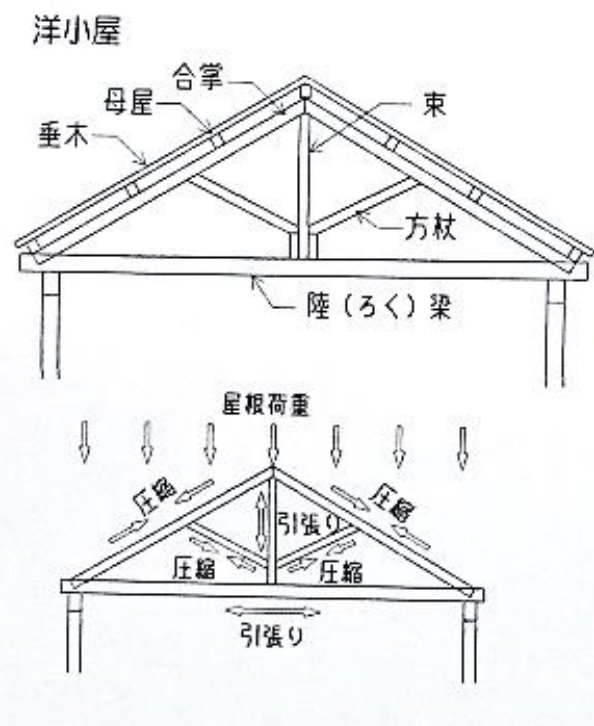
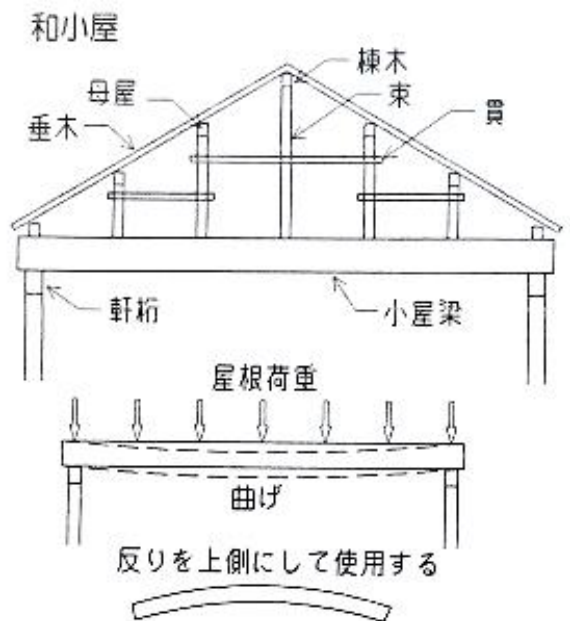
<研究発表>

小屋組みについて

松田孝雄

小屋組みとは

木造建築物において、屋根構造の荷重を受けて柱に伝達する働きをする構造のことをいう。これには主に古来からの伝統工法を引き継ぐ和小屋と、西欧建築の工法を取り入れた洋小屋の二つがある。



和小屋の特徴

屋根荷重を垂木(たるき)・母屋(もや)・束(つか)・小屋梁へと伝えて、最終的に梁の曲げに対する抵抗で支える構造である。屋根荷重は束により梁に伝達されるが、束を貫(ぬき)で前後左右に繋ぐことにより横倒れ、座屈を防止する。

和小屋の特徴として以下の点がある。

- ・構造が簡単なので屋根構造の複雑さ変化に対して対応しやすい。
- ・梁材は他材との接合で複雑な加工を必要としない。動力製材の未発達の前は製材しない丸太のままでも使用できることはメリットが大きい。また梁材は曲げ抵抗が大きいことを期待されるので、曲り材も使用可能で、反りを上側にして使用すると構造上むしろ有利である。
- ・梁材は1本もので使用するのが基本であり、途中で継ぐことはしない。従って建築物の規模が大きくなると、長大な梁材が必要になる。
- ・現在でも木造建築で多く用いられている。

洋小屋の特徴

洋小屋は部材を三角形に組んだトラスを形成して屋根荷重を受ける構造である。

- ・トラスを構成する合掌、束、方杖、陸梁の各部材は圧縮および引張り力を受けるが曲げは働かない。
- ・一体構造なので部分的な変更に対応することは難しい。
- ・大規模空間を得るのに適していることから以前は学校建築等に用いられた。
- ・力学的に無駄がなく優れた構造であるが部材の加工に精度が求められ、部材の接合にはボルトプレート等の金具を使用することが必要になる。
- ・したがって動力製材と金具の生産が普及していない時代には採用が難しかった。

筆者がベルギーで見た古い時代(16、17世紀?)の教会は洋小屋ではなく、和小屋を用いていた。

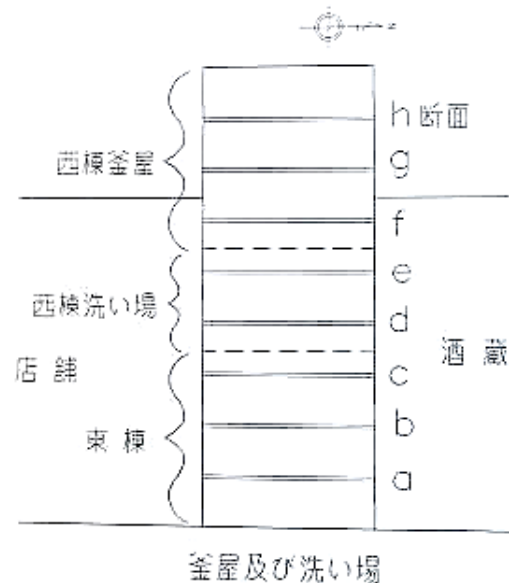
旧岡田家の釜屋及び洗い場の小屋組

店舗と酒蔵の間に位置する釜屋及び洗い場は桁行21.5m、梁間8mの細長い形状であり、建築

年代から以下のように3つに区分される。

- ① 東棟・・・棟札より大正6年の新築
- ② 西棟洗い場部分・・・明治後期の増設
- ③ 同釜屋部分・・・江戸後期の建物を大正期に改造したと考えられている。

釜屋及び洗い場には全部で8断面(a~h)の小屋組みが配置されている。



釜屋部分の小屋組み

棟・・・洋小屋(前頁図参照)が2断面(a, b)、梁材として加工材を2本束ねてダブルで使用した和小屋が1断面(c)の計3断面がある。

西棟洗い場部分・・・陸梁に和小屋の丸太梁を転用して用いた和洋折衷のような洋小屋の2断面(d, e)

釜屋部分・・・荒仕上げの丸太を梁材に用いた和

小屋(前頁図参照)2断面(f, h)と煙出しを受ける合掌の1断面(g)、計3断面がある。

同じ建物で増築、改築した時代により異なる構造を用いているのは面白い。

店舗の構造

店舗は平入りで棟は南側道路と平行である。桁行 15.4m、梁間 15.0mで屋根はむくりを付けて土間部で見上げると小屋束を桁方向、梁方向に交差して繋ぐ貫、小屋束を支持する梁、さらに梁を支持する大梁、大梁を受ける大黒柱など豪壮な小屋組みが見られる。なお大梁は末口が1.4~1.5尺(42cm~45cm)の松材、大黒柱は8寸(24cm)角の檜材である。



店舗の小屋組み

<参考文献>

重要文化財旧岡田家住宅保存修理工事報告書(災害復旧) 発行 伊丹市



思い出の世界遺産(14)

ベトナム中部の巻 ① 山内富美子

ベトナム中部最大の都市ダナンまで、関西空港からの直行便はなかったため、南部のホーチミン市まで、およそ6時間のフライト。そこから1時間余りのフライトでダナンに到着しました。

家を出てからダナンのホテルに着くまで、16時間ほど同じアジア圏内なのに予想以上の時間がかかりました。

ダナンの空港では、現地のガイドさんが迎えてくれました。彼の名前がベトナム語で「松の木」という意味なので、「松ちゃん」と呼んで下さいとのことでした。190cm以上の長身で、顔が日本ハムの大谷選手に似ていることからツアー仲間に人気があり、みな親しみを持って接していました。

最初に訪れたのは、古都のフエという町です。今年、天皇皇后両陛下も訪問された町です。フエは、ベトナム最後の王朝であるグエン朝の都がおかれた町で、1802年から1945年まで都として続きました。いわば日本の京都のような町で、ゆったりと流れるフオン川のほとりに、王宮や寺院、皇帝陵などの風格のある建築物群が点在していて、とても落ち着いた町です。これらのいこしえの建築物群が、1993年にベトナムで初めての世界遺



産に登録されたのです。

カイディン帝陵

グエン朝の王宮や、ティエンム寺のような寺院やカイディン帝陵という皇帝のお墓のある場所は、静まり返っていて、まるで王朝時代にタイムスリッ

プしたかのような錯覚に襲われます。

フエのシンボル王宮の午門は、石で造られた二層式の中国風の建物で、門口が5つあります。中央の門は皇帝の外出時に使い、左右の門は文官と武官が使用し、外側の門は武士や象や馬などが、使用していました。今は、観光客の入り口や出口に使われています。午門の午には南という意味があり、古代中国の「聖人・君子が南から耳を傾ければ、世の中は治まる」という考え方に由来しているそうです。

午門に入ると、正面の赤い屋根の大きな平屋の建物が太和殿で、中国の紫禁城をまねて造られたものです。ベトナム戦争中に破壊され、今あるのは1970年に再建されたものです。屋根のあちこちにある皇帝を表す龍の装飾は見事です。王宮内には、沢山の建物があつたのですが、戦争で破壊され盗難にあい、多くはまだ再建されないままの状態です。フラッグ・タワーという旗の塔の台座には、銃弾の跡が残っています。

王宮内には向かって右側には四季を表す春・夏・秋・冬の4つの大砲が、左側には中国の五行思想が反映された木・火・土・金・水の五つの大砲が置かれています。これらの大砲は一度も使われたことは無く、超自然的な霊力があり、王宮を守っているとされています。フエの王宮内のすべての建物が再建されると、王朝時代の素晴らしさを今以上に体験できるようになるでしょう。王宮内を馬車や電気カーで巡るツアーがあり、回ると1時間はかかる程広い王宮です。

フエには1601年に創建されたティエンム寺という寺院があり、高さ22mの七層八面形の塔はフエのシンボルです。その塔は「慈悲の塔」といって「幸福と天の恵み」を意味しています。この寺には伝説があります。それは、ある時、顔つきは、若くみえるが、白髪と白い眉毛の老婆が赤い服と緑のズボンをはいてこの場所に座り、「まもなく、ここに支配者が来て、塔を建てるだろう」と予言してどこへともなく消えていきました。その老婆こそ天女で、その天女を記念して建てられたのがティエンム寺です。それ故、「天女の寺」とも呼ばれ、天女の像

が祭ってあります。



ティエンム寺

また、ベトナム戦争中に政府に抗議して、この寺の住職が焼身自殺をしたことでも有名で、彼が、サイゴンまで乗って行った車と、焼身自殺の時の写真が展示されていて衝撃的でした。

フエのもう1つの目玉はカイディン帝陵です。グエン王朝の帝王の陵(お墓)はいくつもありますが、この陵が最も有名です。カイディン帝は自分が生きている時から死後まで、11年もかけて、自分の陵を造らせました。彼は新しい物や派手な事が好きで、東洋と西洋の様々な建築様式を取り入れての陵の建築でした。その上無宗教だったので、仏教・ヒンドゥー教・キリスト教の宗教建築が混在しています。カイディン帝が最も心血を注ぎ、偉業といえるのが自分のお墓で、芸術的にも優れたカイディン帝陵を建てたことです。石の階段の手すりには龍が刻まれ、階段の上には馬や象や役人の石像が立ち、陵を守っています。陵の内部には金箔でおおわれたカイディン帝の等身大の像が置かれ、その下9mの所に彼の遺体が安置されています。陵の内部の壁と天井は中国の磁器や日本のガラスで美しく、ステンドグラスのように飾られています。皇帝の偉業を称える塔はヨーロッパ風のもので、内部の部屋には、皇帝の遺品が展示されています。このカイディン帝陵は一種の美術館・博物館と表現してもいいような観光スポットです。

フエではホーチーミンをはじめ、近代ベトナム史に名を残す要人たちが学んだという、クオック・ホックという学校を訪れました。そして、日本の皇太子が宿泊されたインペリアル・ホテルに宿泊できたのはラッキーでした。(次号に続く)

阪急・阪神沿線観光あるき③

伊丹緑道と多田街道を散策

阪急伊丹駅 →猪名野神社 →伊丹緑道→白洲屋敷跡 →辻の碑 →緑ヶ丘公園 →妙宣寺→みやのまえ文化の郷

4月22日(土)好天に恵まれ、気温もぐんぐん上がる中、神戸市や吹田市など市外から24名、市内から4名の方々が参加されました。

阪急伊丹駅から三軒寺前広場を歩いて猪名野神社へ。法巖寺の大楠木や宮ノ前通りの景観に、早くも「伊丹ってステキな街ね」の声もあがっていました。猪名野神社の木陰で一服しつつ、鬼貫の句碑や燈籠の数に、江戸時代の伊丹の繁栄を感じとっていただけたかな。

駅のパンフレットで竹林の中を行く伊丹緑道の写真を見て「ぜひ来たかったの」と言われるかたが、何人かおられました。あの竹林は「今はない」と言えなくて、ドキドキでしたが、新緑と名残の八重桜、山元さんの樹木の解説に、竹林のことは何処へやら。帰られるころには「伊丹緑道よかったね」とおしゃっていました。

緑道を途中で下りて多田街道へ。北村の景観を創る会の岸本会長が、水車を回して辻の碑の説明をして下さった。



多田街道の水車

国道を横断して緑ヶ丘公園へ。ここでも新緑がまぶしい。池と亭(ちん)と木々の緑に歓声があがり、亭や鴻臚館の説明を興味深く聞いておられた。

お茶をいただいた後は、正午過ぎのお陽様が照る中を妙宣寺へ。妙宣寺の立派な本堂もさることながら、竹塚の竹や碑の文字にも興味津津でした。

帰路は、山元さんの機転で伊丹坂から再び緑道へ。涼やかな風とまぶしい新緑に、伊丹のイメー

ジがアップしたようです。

みやのまえ文化の郷で解散した後、パンフレットの割引券のお店の場所を尋ねられた方が何人かあり、伊丹の繁栄に少しはやくだったかなと思うයි。

(半澤 記)



【町の小さな文化財 第13回】

おやまと侍/門の前の愛宕さん

寺本東2丁目と昆陽南4丁目の境界道路に沿って昆陽井が流れている。

寺本東2丁目9-20の前に昆陽井に沿って細長い緑地があり、木々の間に二つの祠と少し大きな石碑が立っている。



おやまと侍(左右)、門の前の愛宕さん(中央)

「おやまと侍」と伝えられている二つの祠は、「遊女と侍」が心中したあとを祀ったと伝えられてきた。小さい祠が「おやま」で大きい祠が「侍」ではないかと言われている。遊女と侍がどんなに好きあっても、身分の違いから決して一緒にはなれない時代であった。二人はどこから来て、どこへ行くつもりだったのだろうか。周辺の村では二人の心根を憐れんで祀ったと伝えられる。現在の祠はコンクリートブロック製の比較的新しいもので、施錠されているため中にどのようなものが祀られているのか定かでない。

二つの祠に挟まれた石碑は、「門の前の愛宕さん」と呼ばれている。形からすると、元々は村と村の境界地に置かれていた道祖神とも考えら

れる。

この石碑の立つ周辺の村では、異なった話が伝えられている。

一つは「いぼ」や「腫れ物」が出来た時、「はしか」にかかった時などにお参りし、治ったときにお供え物をするという民俗信仰の神であった。

もう一つは、地域に疫病などが流行したさいに、この石碑を境界として疫病を向側に閉じ込めてくれると信じられて来た。

(足立繁 記)



活動記録 (5月～7月)

定例会 ・5/9 (火)・6/13 (火)・7/11 (火)

案内ガイド ・5/8 (月) Aコース (大西順子 稲美町)・5/10 (水) 岡田家 (みなわ会 宝塚市)・5/16 (火) Aコース (雨月俳句会 伊丹市)・Bコース (伊丹スワンクラブ 伊丹市)・5/20 (土) 惣構北部 (市民ハイク)・岡田家 (香里園ママさんコール 枚方市)・5/23 (火) Dコース (自然総研 池田市)・5/24 (水) Aコース (大阪府高齢者大学 大阪府)・5/28 (日) Aコース (宇治大吉山青春18の会 宇治市)・6/3 (土) 岡田家 (南国殖産 鹿児島県)・6/8 (木) 岡田家 (コープカルチャーセンター 大阪市)・6/10 (土) 岡田家 (ライズワーク 伊丹市)・6/11 (日) Aコース (世界遺産関西交流会 大阪府)・6/15 (木) Dコース (ボランティアグループ槻輪 高槻市)・7/4 (火) Aコース

(KBC

サークル 神戸市)・7/5 (水) 岡田家 (どんぐり村 猪名川町)・7/7 (金) Aコース (MD ライフ三田OB会 三田市)・(NPO 法人大阪北部コミュニ

ティカレッジ 大阪府) ・7/8 (土) Aコース (1Fおいしいの会 伊丹市)・7/29(土)Aコース (一期会 西宮市)

歴史ロマン体験学習支援

- ・5/20 (土) 鉛筆立て
- ・6/3 (土) 革細工
- ・7/8 (土) 蒔絵

有岡城の清掃

- ・5/23 (火)・6/27 (火)・7/25 (火)

今後の予定 (8月～10月)

定例会

- ・8/8 (火)・9/12 (火)・10/10 (火)

案内ガイド ・8/20 (日) Dコース (伊丹市友会 伊丹市)・8/30 (水) Dコース (大阪高齢者大学 大阪市)・9/9 (土) Aコース (文化財愛護少年団 伊丹市)・9/22 (金) Aコース (NPO 法人ONCC 北摂地域)・9/25 (月) Aコース (学文公民館推進員 西宮市)・9/26 (火) Aコース+交流会 (楽らく探見隊 西宮市)・9/27 (水) Aコース (わが町同好会 川西市)

どんぐり座公演

- ・8/3 (木) 桜台小児童クラブ
- ・8/16 (水)～8/18 (金) ことば蔵
- ・8/25 (金) 瑞穂小児童クラブ

歴史ロマン体験学習支援

- ・8/19 (土) 楔形文字
- ・9/9 (土) 螺鈿

有岡城の清掃

- ・8/22 (火)・9/26 (火)・10/24 (火)

お知らせ

中央公民館2F 廊下に設置されていた文化財ボランティアの会の書類キャビネットは3Fに移動されました。

編集後記

断続的な豪雨が続き、なかなか決断できなかった気象庁もついに梅雨明けを宣言して本格的な夏がやって来ました。昼は猛暑、夜は熱帯夜と体調を崩しやすい条件が揃っています。お互い体調管理に配慮して夏を乗りきりましょう。(M. Y.)